

注意事項

- 必ず主治医の指示を守って飲んでください。決して自分の判断で飲む量を変えたり、飲むのをやめたりしないでください。
- 車の運転等はしないでください。
- このお薬について分からないことがありましたら、主治医または薬剤師に相談してください。

医療機関名

製造販売元



株式会社 陽進堂
富山県富山市婦中町萩島3697番地8号

336A004
S1・01・0318・NIP

プラミペキソール塩酸塩錠「YD」を

服用される患者さんへ

— むずむず^{あし}脚症候群 —

監修：獨協医科大学病院長

獨協医科大学内科（神経）主任教授 平田 幸一 先生



 Yoshindo

あし むずむず脚症候群とは？

「むずむず脚症候群」は、「レストレスレッグス症候群」や「RLS」、「下肢静止不能症候群」とも呼ばれています。

「むずむず脚症候群」は安静にしている時や眠ろうとする時に発生する腕や脚の異常な感覚を特徴とする知覚障害であり、その症状は、発現部位の筋肉を動かす事によって軽くなります。

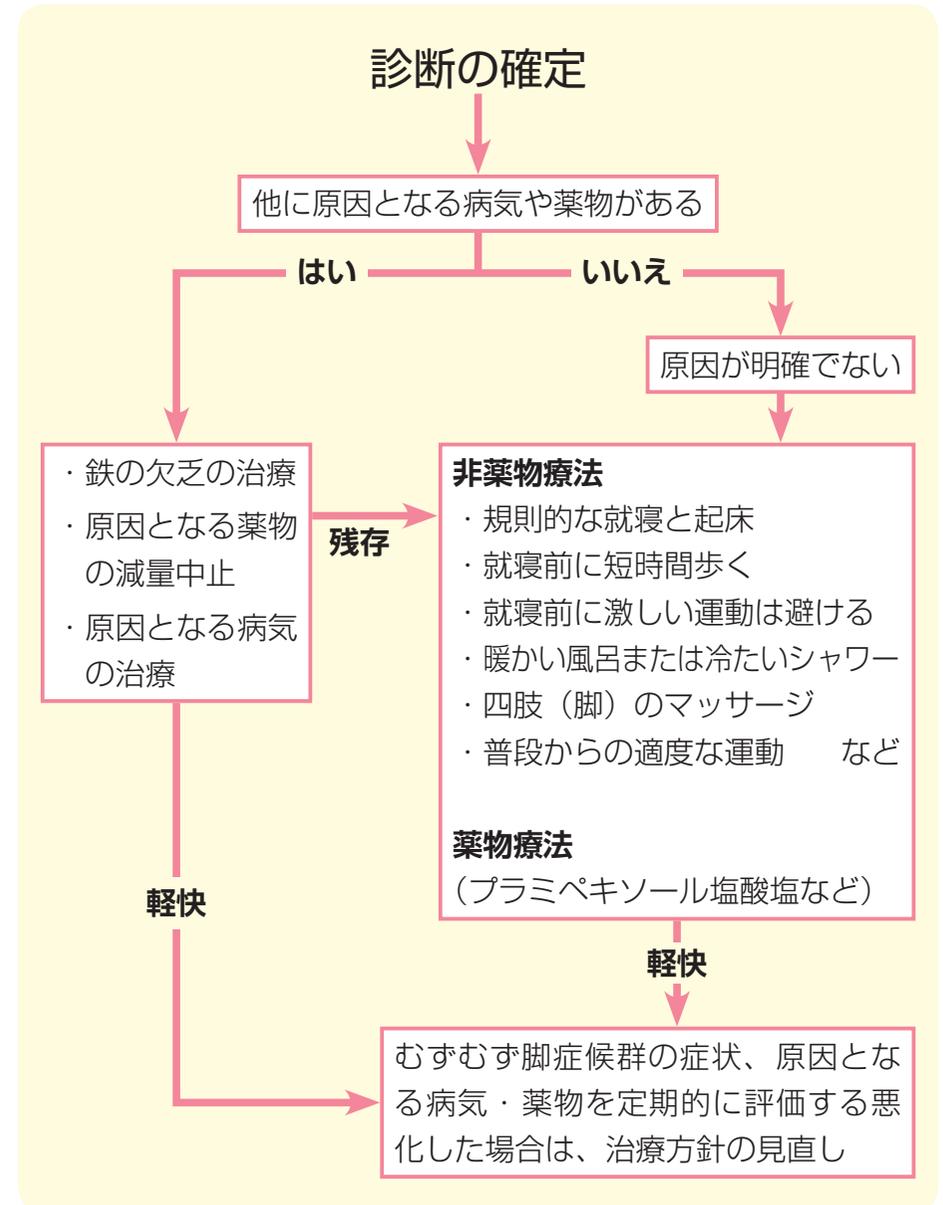
異常な感覚は、脚を中心に局所に発生し、原因不明な事が多く、夕方や夜に症状が強く出たり、頻度が多くなったりします。また、眠っている間に睡眠ポリグラフという脳波・呼吸・脚の動きなどを測定する検査で、多くの患者さんに腕や脚の周期的な運動がみられます。

ご家族の中に「むずむず脚症候群」の人がいる場合、遺伝的に発症する事も多く、これらの症状はドパミン作動薬（プラミペキソール塩酸塩など）によって緩和されると考えられています。

むずむず脚症候群の診断基準

- ① 脚を動かしたくてたまらなくなり、それは不快な脚の異常な感覚を伴って生じる。
- ② 静かに横になったり座ったりしていると①の症状が現れる、または悪化する。
- ③ 歩いたり脚を伸ばしたり運動すると①の症状は改善する。
- ④ 日中より夕方や夜に①の症状が強くなる。
- ⑤ 症状は 他の病気・習慣的行動では説明できない。

むずむず脚症候群の診療の流れ



<出典>

日本神経治療学会 標準的神経治療：Restless legs症候群（2012年）

平田幸一 I Restless legs症候群の定義と発症機序

VII Restless legs症候群の治療（薬物治療と非薬物治療）